

新刊紹介

水資源開発公団八木沢建設所編

矢木沢ダム工事誌・図集

矢木沢ダムは昭和 11 年頃から東京電力、群馬県、東京都の三者により発電、かんがい用水、上水道の目的で計画され、昭和 34 年に洪水調節を加えた特定多目的ダムとして建設省の手で着工され、その後水資源開発公団に移り工事が進められ、8 年 6 ヶ月をついやして昭和 42 年度に竣工した。

本誌はその工事記録誌であって、別冊として 133 葉におよぶ大部の図集が添付されている。

本書は、専門的な内容をできるだけ平易に記述しており、その内容を章別にみると第 1 章 序論、第 2 章 調査、第 3 章 設計、第 4 章 仮設備、第 5 章 施工、第 6

章 管理設備、第 7 章 用地補償、第 8 章 機構その他となっている。

このダムはアーチ式非越流型の主ダムを中心とし、ウイングダム、わきダムより構成されているが、これらの経緯については、第 3 章 設計編に詳細に記されている。特に第 5 章 施工編に最も多くページ数が割かれているが、骨材の製造から基礎グラウト、ダムコンクリートの管理、継目グラウト、ダムに関する測定、その他数々の付帯工事を含めて数多くのデータ、写真が集録されている。

従来の工事誌では本誌と折り込み図集と一緒に製本されているものが多く、利用するのにいささか繁雑であったが、本誌はこの点読者に親切な編集となっている。

本誌がダム関係の技術者にとって貴重な資料となるのみでなく、学生諸君にとっても大いに参考になることが期待される。

[K]

(工事誌) 水資源開発公団発行、B5判・797ページ、非売品

(図集) 水資源開発公団八木沢建設所発行、A4判・133ページ、非売品

新刊図書目録

編著訳者名	書名	判型	頁数	出版社名	定価(円)	記	事
池田康平・手塚民之祐共著	鉄筋コンクリート高架橋の設計	A5	139	山海堂	580	鉄道土木シリーズ第6号として発行された本書は、簡単な鉄筋コンクリートラーメン高架橋の設計を行ったり、チェックをするときに必要となることを、具体的に記述したものである。実用的な観点すなわち示方書と設計計算法が関連するような配慮もされている。	
大平拓也著	鋼ゲタの架設	A5	149	山海堂	580	同上シリーズの第7号目の本である。橋梁工事のうちでも割合仕事量の多い桁の架設、架替えを中心として、地道に勉強される方のために記述されたものである。	
日本ダム協会編	WORLD DAMS TODAY (英文)	A4	435	ダム協会	国内 4000 国外 \$13	本書は題名のとおり、今日のダムの報告書である。総括、北米、カナダ、中南米、オセアニア、欧州、共産圏、中東、東南アジア、日本の各編からなり各編ごとに各国の第一線の方々から当面する課題について記述している。	
伊吹山四郎著	道路工学演習	A5	412	学献社	1400	土木の仕事は、原理、公式を知るのみでは十分ではなく、原理、公式を十分に理解したうえで、いろいろな事例について演習を試み習得せねばならない。本演習シリーズはこの点に留意して、実際に応用できるいろいろなケースの演習をのせている。本書は、序論、交通調査、道路計画、幾何構造、踏盤工、セメントコンクリート舗装、アスファルト舗装、簡易舗装、道路付属設備の9章からなっている。	
堀井健一郎著	橋梁工学演習	A5	340	学献社	1200	同上書と同様な主旨に基づき、総論、基本部材の設計、接合、木げた橋の設計、プレートガーダー橋の設計、トラス橋の設計、鋼橋各部の設計、橋梁下部構造および基礎の設計、付録からなっている。	
千秋信一著	発電水力演習	A5	423	学献社	1500	明治25年京都にわが国では第1号の水力発電所がつくられてから、75年間に1560の発電所、総出力1600万kWが建設されたといわれているが、本書はこの積重ねられた水力発電技術の歴史のうに、著者独自の研究成果を盛ってユニークな演習本として登場したものである。今日までこの種のものがなかった分野だけにその存在は貴重である。本書は総論、発電計画、有効落差、水路の設計、水路工作物の設計、サージタンクの設計、水圧管路の設計の7章からなっている。	
春日屋伸昌著	測量学演習(1)	A5	392	学献社	1300	本書も同演習シリーズの一冊であるが、演習問題の選択にユニークなところがある。すなわち測量士補、測量士の国家試験問題を全部収集・分類して、その代表的なものを中心に着わされている実戦向の好書である。	
久保慶三郎著	構造力学演習	A5	268	学献社	1000	本演習本の目次は、図解力学、フックの法則、反力、曲げモーメント、せん断力、はりの応力、はりのたわみ、たわみ角、弾性荷重法、弾性床土のはり、3連モーメントの定理、トラス、カスティリアノの定理、エネルギー最小の原理、アーチおよび曲りばり、不静定構造、影響線、たわみ角法、モーメント分配法の16章からなっている。本シリーズ中において特異な点は巻頭に「読者へのしおり」欄を設け、構造力学の学び方と本書の利用法を述べている所は親切である。	